

議会報告会実施報告書

開催日時	平成 29 年 11 月 10 日 (金) 18 時 00 分～19 時 45 分		
開催場所	厚田望来コミュニティセンター みなくる	聴 衆	13 名
担当議員	1 班	和田 (班長)、青山、上村、佐々木、三崎、日下部	

報告事項に関する質疑

Q 1 交通の件について乗車場所等、どのような体系で運行されているのか。

A 1 ・各務原市は、鉄道 3 路線 16 駅、民間バス 11 路線があり、市が運営するふれあいバス、ふれあいタクシーは、その既存交通を補完する役割を果たしている。ふれあいバスは通常の路線バスのようにバス停から乗車、乗車 1 回 100 円、人口密集度が低い地域は、ふれあいタクシーという形態で、指定乗車場にて乗降を行う乗合タクシーの形となっており、予約制で乗車 1 回 300 円。事業費については約 1 億 8,000 万円のうち運賃収入は約 1 割程度となっており、残りの 1 億 5,000 万円程度は市が負担をしている。

Q 2 京都市の資料館について。

月形の資料館では北海道の開拓の歴史に分かりやすい展示が多くあり、厚田の歴史も知ることができる。現在のあいロードの名称も地元の人にしか分からない。ニシンの文化など分かりやすい形で発信した方が良いのではと考えるが、このような資料館の視察を、どのように反映させていくのか。

A 2 ・私は、石狩に入植して 4 代目で先祖は山形から来ています。北海道は本州に比べると歴史が浅いまちではあるが、道の駅には新たに資料館もできる。また、石狩鍋は鍋としての知名度は全国で 1 位だそうです。石狩市の場所も知らない方はいるかもしれませんが、今後も石狩湾新港など道内でも発展要素を沢山持っているの、これからも石狩の良さを発信していきたいと考えている。

議会報告会実施報告書

Q 3 石狩といっても、石狩、厚田、浜益が合併しており、単純に石狩ではくくれない。現在の資料館は厚田出身の4人に絞られていて、厚田と市の歴史が分からない。厚田は石狩鍋ではなくニシンで栄えた歴史があるので、それぞれの街の歴史が分かる資料館を望む。

A 3 ・月形の資料館も、刑務所の歴史の中の一部に地域の歴史が入っている。石狩にあるそれぞれの資料館も、その地域ごとの資料館となっている。これまでも新たな資料館を作ってほしいという要望は出ていたが、資料館の整備は優先順位が低い。しかしながら、いずれは石狩全体の歴史が分かる資料館は必要だと考える。その為にも、先進地を視察し資料館の必要性や在り方の調査を積み重ねながら、市に働きかけていきたい。

Q 4 ・来年厚田村が開村して150年と聞いているが、石狩市として何か計画はないか。

・40年前、110年の開村記念を行った際、タイムカプセルを埋めている。11月13日に各地区から当時の青年会をはじめ役場関係者などから実行委員を募り、タイムカプセルの開封を含め、記念誌の発行を行うかなどの協議を進めていく予定。今後、経費等については役所側にお問い合わせも必要になるかもしれないが、現段階では何も決まっていない。

・いわきから6年前に引っ越してきた。いわきに住んでいた時の部落は800年の歴史があり、伝統が引き継がれていた。花川にしても緑ヶ丘にしても、数十年前に集まってきた新しい団地で、子ども達が石狩の歴史を知らないまま外に出て行ってしまう。

・八幡小学校では、5年生、6年生の劇で八ノ沢の歴史を扱っていた。こういった地域の歴史を先生方が着目して教えていくことはとても良いと思う。本州では石狩鍋の知名度はあるが、実際に石狩で本格的に石狩鍋を提供している所が5店くらいしかない。ふるさと納税等も含めてPRの方法を考えたほうが良い。

A 4 ・様々な意見をいただき参考にしていきたい。石狩町時代にタナカミノルさんという方が、石狩の歴史に関する研究を熱心に行っていた。郷土史研究会が中心に行っている市民カレッジに私が参加したときには、こんなにも石狩の歴史を学び伝えて生きたいという市民がいることに安心感を覚えた。

議会報告会実施報告書

意見及び要望等

Q 1 厚田小学校、厚田中学校、保育園が一緒になった新たな学校ができるかと回覧板で知った。0歳から預るとの事で、学校は授業間のチャイムや子ども達の声などがあるなかで、学校と同じ所で保育が可能なのかどうか。

A 1 ・保育園も一緒というのは保護者の要望でもあると聞いている。同じ所の方が預けやすい一面もあると思う。年齢による遊び方の違いや感染症など懸念事項もある。委員会の場で議論していきたい。

・認定こども園では、0歳～2歳までは、それぞれの年齢に対応した部屋となっていて、0歳児においては3人に1人の保育士が配置されていることから、十分な配慮がなされるものと考えている。

・4月から改築し認定こども園を運営しており、生後2ヵ月の子もいる。ホールを幼稚園、保育園が囲むような園舎になっており、特に防音等もしていない。幅広い年齢の子ども達が交わることで刺激し合う事は良い事だと思う。防音や園内の消毒、アレルギーを持つ子ども等への配慮はなされているものと考え。以前、沖縄に視察にいった際、小学校、中学校が一緒になっていて別棟に幼稚園がある学校を視察したが、兄弟がいて何かあった場合や、授業参観などは便利であるとか良い面もある。

・学校問題配置検討委員会で構想は出来上がってきている。基本計画では3階建てで、1階が保育所関係、2階が小学校、3階が小学校高学年、中学校という形で棲み分けをしており、保護者の方も理解して下さっている。平成32年4月に開校という事で計画が進んでいる。

Q 2 自分の子どもが赤ちゃん保育園で育ってきた。先生にはいろいろな事を教えてもらって、厚田の新しい学校の図面を見た時に、なぜ保育園が一緒なのか分からなかった。図書館も職員室もあり、いろんな人が通るところに赤ちゃんがいるのは不安。衛生面に配慮することも必要ではないか。保育園を一緒にする事になった経緯を知りたい。

A 2 ・現在の保育園は海拔3mのところであり、雨漏りなどの老朽化も進んでいる。波への防災からも高台への移転が望まれている。

議会報告会実施報告書

・まだ検討していく点はあると思う。私の園では全部平屋になっているが、津波の際は隣の小学校に避難できるよう協力をお願いしており、年に2回避難訓練も行っている。小学生のお兄ちゃんお姉ちゃんと幼稚園児と一緒に遊べる環境はメリットも大きいと思う。インフルエンザなどの感染症は、蒸気を発生させて感染を抑制する設備などもあり、対策は講じられると思う。

Q 3 赤ちゃんはすぐに外に出られて、日当たりが良いところが望まれる。図面を見ると、体育館があり、日当たりが悪いと思われる。小中学校の中に保育園を入れる理由があるのか。

札幌でも保育園と学校が一緒になっているのは1校だけ。中央区で土地がないから。無理に学校の中に入れる必要があるのか。保育園を一緒にする理由がはっきりしない。

A 3 ・公共施設の在り方の観点感から考えると、市では公共施設を20年間で20%削減すると計画を立てているが、この5年間で施設面積はまったく削減に至っていない。今後の財政状況等を勘案すれば、施設の維持経費等も含めて、施設の統合、集約化は必要だと考える。地域の声も聞きながら、地域に求められる学校にしていくことが大事だと思う。

Q 4 昨年もこの場で申したが、市の職員の半分近くが市外から通っている。市の職員は課長職だと800万円くらいもらっていて、議員さんだと500万円くらい。郷土愛を持ってと言われても、石狩に住んでいないのに郷土愛なんて持てない。去年は、住居と仕事は法律上分けられると言われた。しかし、職員の住居については、公共の福祉に反しない限りという一文があり、現に警察や消防の方は、よそから通っていない。市民としての要望として受け止めてもらいたい。

A 4 ・一般質問としても取り上げてきたが、市は意識喚起をしていくという事だけで、実行力のある提案がないのが私自身は不満。市の職員の待遇は恵まれていると思うし、できる限り地域に奉仕していただける方になってもらいたい。居住する職員へ住居手当を出してもいいし、市内を超えた分の通勤手当は出さないなど実行的な施策が必要だと思う。職員の問題なので、執行機関として判断してもらいたいと思うが、議会としての提案があっても良いと思う。この点は議会としての議論も必要。

・私も同様の意見であるが、道東方面の市でも職員が市外に住むという事で問題になった経緯がある。隣接地の方が税金が安い、住宅も安く買えるなどのメリットも

議会報告会実施報告書

あった。しかしながら、議会やまちの住民が声を上げたことにより、職員の意識が変わり、自然的に元に戻ったというところもある。多くの議員が一般質問をはじめ委員会等で取り上げていることもあり、住民と一体となって声を上げていくことが必要。防災の観点からも課題があり、そういった点からも今後も議論を深めていきたい。

・私も議員になる前は総務部長をやっていた。採用試験の際、採用されたら石狩市に住むかとの質問に対し全員が住むと答えていたが、実際採用されたら、そうではなかった。例えば、札幌市の南区から通勤していても通勤手当は支給される。市外居住者だけ市内を超えた分の通勤手当を支給しないようにすることは、法律的には認められない。大阪の前市長のように裁判で負けたら認める、といった強い姿勢も必要だと考えるが、市長の立場では裁判で負けるような事をできない事情も理解できる。今年、移住、定住者を増やそうと1, 200万円の予算をかけ、市内に事業所で働く方を市内に住んでもらえるよう政策を行うとの事で、予算委員会の場では、いるかないか分からない人を探すよりも、市役所の中の職員に市内に住むよう働きかけたほうが効率が良いのではないかと申した。それぐらい覚悟を持ってのぞまないと、この問題は解決できないと思う。

Q 5 強制できないのは現実。石狩に住むメリットがない事を認識すべき。札幌市の方が福祉も充実していて、石狩には病院も保育園もない。そこにお金を投入しないで、市内に住みなさいとか交通手当の問題を議論しても意味がない。これらの問題を解決する方が優先。水道代が札幌の倍。子育て世代にとっても札幌の方が良いと思う。

A 5 ・住みたいと思うまちにしていく立場の人たちが、外に出て行くことが問題という主旨の質問であるので、職員自ら、または行政を執行するものが良く考えてもらう問題だと思う。

議会報告会実施報告書

開催日時	平成 29 年 11 月 10 日(金) 18 時 30 分~20 時 30 分		
開催場所	浜益コミセン きらり	聴 衆	12 名
担当議員	2 班	加納 (班長)、蜂谷、片平、神代、阿部	
報告事項に関する質疑			
Q1 石狩市にも防潮堤が出来るのか。			
A1 防風保安林の防潮林としての有効性が検証され、平成 29 年 7 月に北海道として 33 か所認定し、石狩はその内の一か所として認定された。以前から、高潮などで砂浜が削られるなどしていた為、先行して防潮林として有効なカシワ林の整備が進められていた。この道の事業は、防潮堤とセットの防風保安林ではない。			
意見及び要望等			
Q1 以前、実田会館で行われた議会報告会の際に要望したエタンケ橋の改修について、自治会として書面で要望書を市に提出しているが、この間どうなったのかをこちらから尋ね口頭で報告は受けたが、書面などで正式な報告は一切ない。また、工事のやる、やらないが確定した時点でも、すぐに報告するようにしてほしい。			
A1 10 月末で補修工事は終わっていると聞いている。要望されたことはその通りなので、市に伝える。			
要望事項			
1 羽幌沿岸バスが北 24 条で停車するよう、来年のダイヤ改正に間に合うように、市を通して要望して欲しい。			
2 今回の集中豪雨で竜神川が氾濫し、流木などが詰まった為逆流し、床上浸水などの被害が出た。改修などの対策を取って欲しい。			
3. 熊が浜益では頻繁に出ている。頭数も増えている。箱罠を札幌や夕張から借りている。石狩市には無いが、今後考えが必要なのではないか。			
4. 海拔 4m の地区の避難場所が、海拔 2m の浜益小学校になっているのはおかしい。避難場所の見直しをしてほしい。			
5. 防災無線が良く聞こえない。窓を開けても何を言っているのか分からない。750 戸全戸にスピーカーを付けるか、新たに性能の良いタワーを建てるか検討してほしい。			